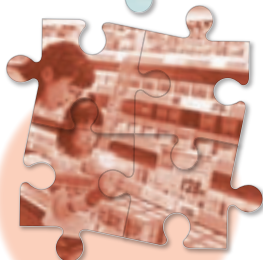
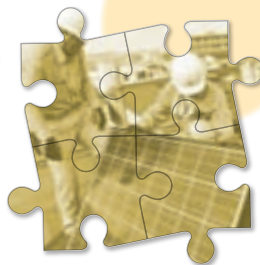
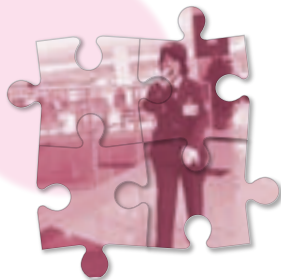




第39期中間報告書

2011.3.1 ~ 2011.8.31



イオンディライト株式会社

証券コード：9787

Top Message

トップメッセージ

増収増益、過去最高益を達成

環境負荷低減ビジネス、成長に向けた「攻め」のM&Aが奏功

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。当第2四半期連結累計期間（2011年3月1日～2011年8月31日）における連結業績と事業への取り組みにつきまして、以下、ご説明いたします。



代表取締役社長
梅本 和典

■当期間の状況

当期間における国内経済は東日本大震災の影響により一時的に停滞を余儀なくされました。その後、サプライチェーンの復旧にともない各企業の生産活動に回復が見られ、個人消費においても持ち直しの動きが見られたものの、円高や国内のエネルギー政策に関する不透明さから依然、予断を許さない状況が続いております。

当社は震災発生直後、大阪本社内に「地震対策本部」、東北支社内に「現地対策本部」を設置し、お客さまの被災状況や従業員の安否確認を行うとともに、本社・各営業拠点スタッフを中心に延べ約300人の応援体制を組み、建物の復旧や資材の納入などを通じて、被災地の早期復興に向けた取り組みを推進してまいりました。生活インフラの基盤となる商業施設の営業再開に大きく貢献して、お客さまより高い評価を受けることができました。

■当社グループの取り組み

当期間における取り組みは以下のとおりです。

■設備管理事業

新規受託先開拓の遅れやお客さまからの減額要請・仕様見直しの影響がありましたが、5月に連結子会社化したエイ・ジー・サービス株式会社の寄与もあり、売上高は212億92百万円（前年同期比103.0%）と前年を上回りました。営業活動の強化とともに昨年度より取り組んでいる巡回型の設備管理の効率化を進め、収益性の向上をめざします。

■警備事業

震災直後の臨時警備需要や安全カメラなどの機器の補修などが売上高に寄与した一方、数年来続いておりますお客さまからの減額要請は依然厳しく、売上高は161億99百万円（同99.8%）とほぼ前年なみに推移しました。新規営業の推進やお客さまの安全・安心を第一に考えた新しい警備モデルの構築により、事業の拡大をめざします。

■清掃事業

新規受託の遅滞により、売上高は198億35百万円（同93.3%）と前年を下回りました。科学的視点にもとづいた独自の作業方法や資機材の導入により収益性の向上をはかるとともに、それらのノウハウをマニュアル化し水平展開することで、利益の確保に努めます。

■建設施工事業

震災により被災した建物の復興工事やその後の省エネ・節電対策といった需要の取り込みに成功したことなどにより、売上高は139億70百万円（同171.7%）と前年を大きく上回りました。省エネ関連工事や修繕工事の需要を確実に取り込むとともに、材工分離発注や電子入札制度の活用などにより価格競争力を強化し、収益性の向上に取り組めます。

■資材関連事業

顧客の購買ルートが多様化しコンペティターとの価格競争も激化するなか、売上高は184億16百万円となりました。アイテム数や仕入先の集約などによるコスト削減提案を積極的に展開するとともに、ロジスティクスの最適化による

物流費の削減により収益性の改善をはかります。

■自動販売機事業

震災による一時的な稼働停止や品不足、その後の節電への取り組みの影響を受け、売上高は165億72百万円となりました。省エネ型や電子マネー自動販売機の展開などにより、販売強化の取り組みを推進します。

■サポート事業

4月に連結子会社化した株式会社カジタクの寄与もあり、売上高は36億39百万円（同142.0%）と前年を大幅に上回りました。各事業において収益を確保できるビジネスモデル構築に向けた取り組みを推進します。

こうした取り組みや前期のチェルト株式会社との合併による寄与もあり、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,099億50百万円（対前年同期比159.6%）、営業利益69億15百万円（同137.7%）、経常利益は69億74百万円（同138.0%）となりました。また、東日本大震災の影響による損失など、4億77百万円を特別損失として計上し、この結果、四半期純利益は37億16百万円（同134.1%）となりました。

なお、当連結会計年度の業績については、売上高2,130億円（同124.6%）、営業利益143億円（同118.8%）、経常利益143億円（同118.3%）、当期純利益76億円（同117.0%）を見込んでおります。

2011年度第2四半期連結業績

■売上高	1,099億円
■営業利益	69億円
■経常利益	69億円
■四半期純利益	37億円

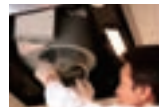
Special : Merging Operations

特集：経営統合

総合 FMS の成長戦略として M&A を推進

当社は、M&Aを重要な成長戦略のひとつと位置づけ、専門性の追求、FMS事業のサービスメニューの拡大、新しいマーケットでの成長を目指し、積極的な取り組みを推進してまいりました。2011年、小型店向け総合FMSモデルの構築とBtoBtoCのニーズを見据えた新たなサービスの提供をめざし、エイ・ジー・サービス株式会社、株式会社カジタクの2社を新たに連結子会社化し、イオンディライトグループに迎えました。

■イオンディライト M&Aの歴史



商号	エイ・ジー・サービス株式会社
所在地	東京都新宿区新宿6-24-16
代表者	代表取締役社長 小林 一
主な事業の内容	コンビニエンスストア、ファーストフード店、飲食店等の小型商業施設に強みを持つ施工・メンテナンス会社
資本金	134.8百万円
従業員数	168人
売上高	6,614 百万円 (2011 年2月期) (注)

商号	株式会社カジタク
所在地	東京都中央区八丁堀4-3-3
代表者	代表取締役社長 澁谷 祐一
主な事業の内容	家事代行の実施、企画・運営、マンションコンシェルジュ、クリーニングサービス等を実施する家事支援サービス会社
資本金	300 百万円
従業員数	96人
売上高	573 百万円 (2010 年9月期)

(注) エイ・ジー・サービスは2011年2月期より決算期を毎年3月31日から毎年2月末日に変更しており、これに伴い売上高は11ヶ月間の決算となっております。

小型施設向けの新たな総合FMSモデルの構築をめざして

多くの企業が首都圏を中心とする大都市圏でのビジネス拡大に向けた取り組みを行い、商業施設や飲食店などが小型の店舗業態での出店を加速させております。

当社はこのような環境の変化にいち早く対応するため、この分野に実績とノウハウのあるエイ・ジー・サービスの株式を追加取得し、当社グループの叡智を結集させた小型施設の新たなビジネスモデルを確立してまいります。

エイ・ジー・サービスは、『小型店舗のトータル管理で国内No1を目指す』をビジョンとし、全国展開するコンビニエンスストアやファーストフード店、ホームセンターや小型スーパー、飲食店といった小型店舗に対し、コールセンターを中核とした設備器機の保守・メンテナンス実施、内装・設備の設計施工から器機のリペア整備・リニューアルまでをトータルに対応できる強みを持ち、その品質と機動力により、店舗運営を行う多くの方々から評価され、成長してまいりました。

同社をイオンディライトグループに迎えたことにより、設備管理や建設施工の分野でも大型施設から小型施設に至るまでフルラインでお客さまのニーズにお応えできる体制が整い、お客さまへの更なるサービス向上につながるものと確信しております。



B to B の先にいっしょなお客さまを視野にいたした総合FMSの提供をめざして

総合FMSでは、B to Bのビジネスを通じて、その先にいっしょな働く人や生活する人たちのニーズを捉えたサービスの提供も行ってまいります。そのための第一歩として、家事支援サービスの分野に強みを持つパートナーとして、カジタクの株式を取得いたしました。

カジタクは、お客さまの暮らしのラストワンマイルの担い手として、「とことん、便利」な社会のインフラとなることをめざし、家の中の様々なニーズにお応えする家事代行サービス（掃除、洗濯、炊事、買い物、お世話）やクリーニングサービス、マンションコンシェルジュ等、変化する人々の暮らしのニーズに幅広くお応えしています。また、ニーズの高い家事代行サービスを『家事玄人（カジクラウド）』としてパッケージ化し、食品や日用品と同じように百貨店やスーパー、ドラッグストア等で店頭販売し、「お店で買える手軽さ」を実現し消費者に提案する等、そのきめ細かいサービスと斬新な企画力により近年大きく成長している企業です。



■「家事玄人」シリーズ

Consolidated Financial Sheets

連結財務諸表（要約）

（百万円）

連結貸借対照表

	当第2四半期連結累計期間末 2011年8月31日	前連結会計年度末 2011年2月28日
（資産の部）		
Ⅰ.流動資産	69,410	64,524
Ⅱ.固定資産	20,882	20,100
有形固定資産	3,832	3,756
無形固定資産	12,795	11,577
投資その他の資産	4,254	4,766
資産合計	90,292	84,624
（負債の部）		
Ⅰ.流動負債	33,570	30,724
Ⅱ.固定負債	985	1,012
負債合計	34,555	31,737
（純資産の部）		
Ⅰ.株主資本		
資本金	3,238	3,238
資本剰余金	18,741	18,741
利益剰余金	33,137	30,575
自己株式	△462	△461
株主資本合計	54,655	52,092
Ⅱ.評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	482	664
為替換算調整勘定	△16	△19
評価・換算差額等合計	466	645
Ⅲ.新株予約権	187	149
Ⅳ.少数株主持分	428	—
純資産合計	55,737	52,887
負債純資産合計	90,292	84,624

（百万円）

連結損益計算書

	当第2四半期連結累計期間 2011年3月1日～ 2011年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2010年3月1日～ 2010年8月31日
Ⅰ.売上高	109,950	68,885
Ⅱ.売上原価	95,444	58,291
売上総利益	14,506	10,593
Ⅲ.販売費及び一般管理費	7,590	5,572
営業利益	6,915	5,021
Ⅳ.営業外収益	181	110
Ⅴ.営業外費用	122	78
経常利益	6,974	5,053
Ⅵ.特別利益	73	3
Ⅶ.特別損失	477	166
税金等調整前四半期純利益	6,570	4,889
法人税、住民税及び事業税	2,759	2,068
法人税等調整額	21	51
法人税等合計	2,781	2,119
少数株主損益調整前四半期純利益	3,789	—
少数株主利益	73	—
四半期純利益	3,716	2,770

（百万円）

連結キャッシュ・フロー計算書

	当第2四半期連結累計期間 2011年3月1日～ 2011年8月31日	前第2四半期連結累計期間 2010年3月1日～ 2010年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,883	2,076
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,680	△2,479
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,566	△637
現金及び現金同等物に係る換算差額	2	2
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△361	△1,038
現金及び現金同等物の期首残高	12,317	7,873
現金及び現金同等物の四半期末残高	11,956	6,835

株主メモ Shareholder's Memo

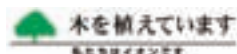
事業年度	3月1日から翌年2月末日
基準日	2月末日 (そのほか必要がある場合はあらかじめ公告いたします。)
定時株主総会	5月
単元株式数	100株
権利確定日	期末配当 毎年2月末日 中間配当 毎年8月31日
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部 大阪証券取引所市場第一部
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話 お問い合わせ先	お取引の証券会社になります。	0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインバスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意		未払配当金の支払い、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。 単元未満の買取以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は、至急ご連絡ください。

(専用ホームページの「お手続き内容」で一部届出用紙が出力できます。)
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/>

ホームページ上で公告・各種資料がダウンロードできます。

<http://www.aeondelight.co.jp>



株式の状況 Stock Information

(2011年8月31日現在)

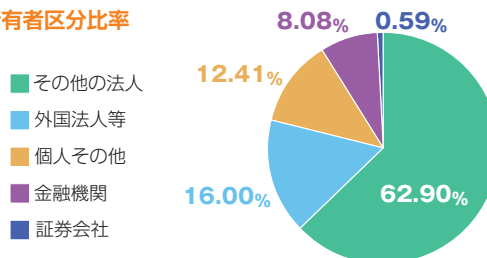
発行可能株式総数	86,400,000株
発行済株式総数	54,169,633株
株主数	6,296名

大株主の状況 所有比率は発行済株式に対する比率です。

順位	株主名	所有株式数(千株)	所有比率
1	イオンリテール(株)	23,261	42.94%
2	イオン(株)	9,103	16.81%
3	ジェービー・モルガン・チェース バンク 385174(常任代理人 (株)みずほコーポレート銀行決済営業部)	2,549	4.71%
4	日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	985	1.82%
5	日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	934	1.73%
6	イオンディライト従業員持株会	673	1.24%
7	メロン・バンク・エヌイー・トリート イー・クライアント・オムニバス(常任 代理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	640	1.18%
8	イオンディライト取引先持株会	564	1.04%
9	ノーザン・トラスト・カンパニー(エイブイ イー・サブアカウント・アメリカン・ク ライアント(常任代理人 香港上海銀行東京支店))	482	0.89%
10	ビービーエイチ・フォー・フィデリティ ロープライス・ストック・ファンド(常任代 理人 (株)三菱東京UFJ銀行)	475	0.88%

- (注) 1 上記所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。
 日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 985千株
 日本マスタートラスト信託銀行(株) 934千株
 2 上記の所有株式数の他に、当社は自己株式を1,726千株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合3.19%)所有しております。

所有者区分比率



地球にやさしいエコペーパーを使用しております。